

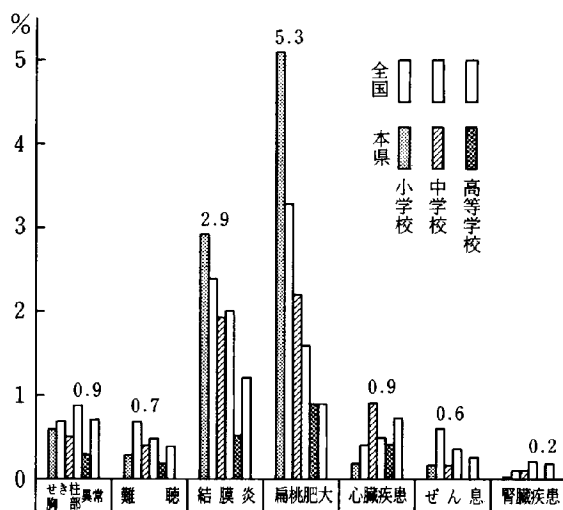
次に、昭和58年度における男女の体格差を年齢別に見ると、7歳までは身長・体重、11歳までは胸囲において男子が女子を上回っている。その後、身長については12歳頃まで男子が女子を下回り、胸囲については12歳から14歳頃まで男子が女子より大きく下回る傾向にある。この年齢層を経過すると、再び男子が女子を上回り、年齢が高くなるに伴って男女の体格差は大きくなっている(図5-1-4)。

したがって、今後は、身体の発育の特徴を踏まえ、全教職員の共通理解を図るとともに、学校と家庭との連携を深め、児童生徒の体格向上に努める必要がある。

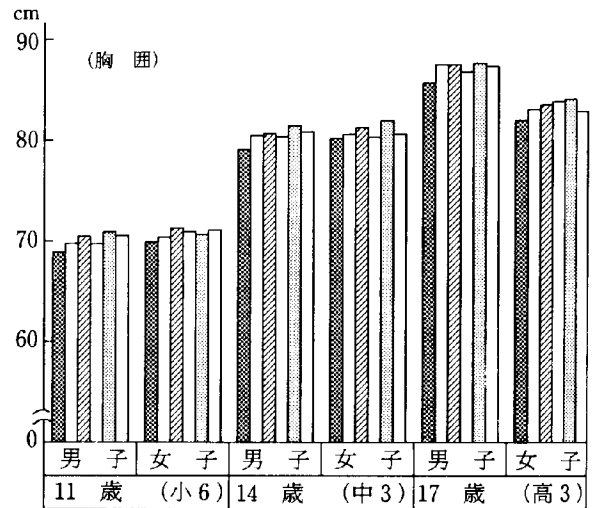
## (2) 学校保健教育及び保健管理

昭和58年度に実施した児童生徒の定期健康診断の結果から、主な疾病・異常の実態を全国の状況と比較すると、小・中学校とも扁桃肥大の被患率が高い。また、本県の疾病・異常は、学校段階が進むに伴い、せき柱・胸郭異常、結膜炎、扁桃肥大の被患率が低下している(図5-1-5)。

図5-1-5 児童生徒の疾病・異常被患率

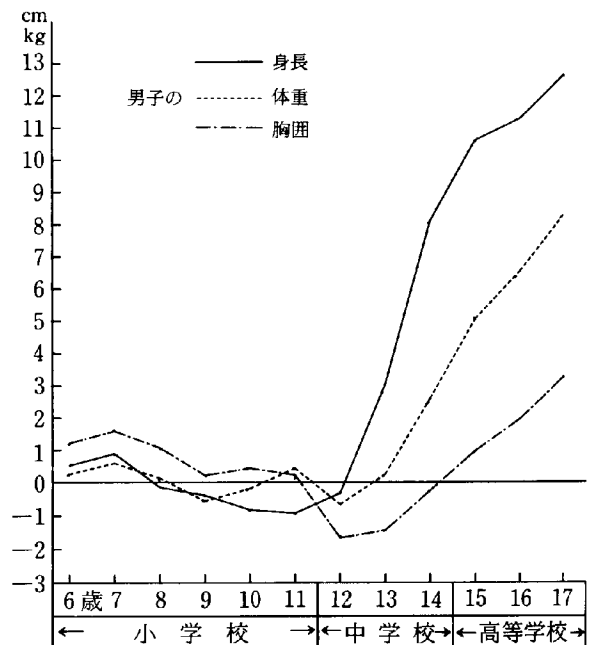


注：「学校保健統計調査報告書」(昭58)による。



注：「学校保健統計調査報告書」(昭47, 昭52, 昭58)による。

図5-1-4 本県の年齢別男女の体格差



注：1. 「学校保健統計調査報告書」(昭58)による。  
2. 体格差は男子の体格から女子の体格を引いたものである。  
3. マイナスは男子が女子より下回っていることを示す。

視力については、小学校、中学校、高等学校と学校段階が進むに伴い、視力低下が見られるのは従来からの一般的傾向である。昭和58年度における視力1.0未満の被患率を見ると、中学校では小学校のほぼ2倍、高等学校では小学校のほぼ3倍になっている(図5-1-6)。

次に、う歯被患率は、昭和58年度においても